



進取の気性

第7号 令和5年10月20日発行

校長 堀越 勉



教育目標

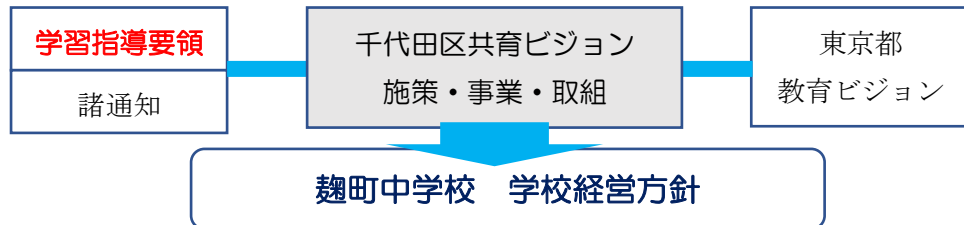
自律

尊重

創造

麹町中を整える（その② テストの在り方）

＜前提＞ 学習指導要領等に基づいて麹町中学校の教育活動を整えています



校訓 進取の気性
激しい変化に柔軟に
対応し、新たなこと
に進んで挑戦してい
こうとする本校伝統
の精神

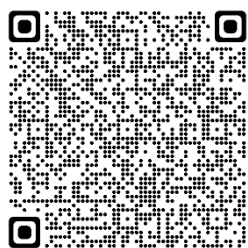
「学習指導要領が変わったのにテストの在り方はこのままで大丈夫？」問題を整える

令和3年度から学習指導要領が改定され、指導内容や評価の観点が大きく変化しています。コロナ禍であったため、その変化を急激に感じることはありませんでしたが、コロナ明けの今年度、全国の中学校で本格的に学習指導要領に沿った教育が展開されています。大きく変わったものの一つに、評価の観点があります。単に知識・理解を見るだけでなく、これからの未来を力強く生きていく子どもたちに身に付けてほしい3つの観点到に整理されています。

本校のこれまでの「単元テスト」で行われてきた、「間違ったところが大切」という理念は大切です。一方で、「未知の状況にも対応」や「学びに向かう力」といったフレーズが明示されている今、本校の単元テストの在り方についても改めて検討していく必要がある時期にきています。高校入試や大学入試も、学習指導要領の改定に合わせて、改善される流れになっていることも意識する必要があります。

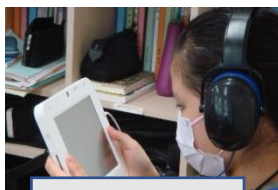
「25分MAXのテストで、ちゃんと測れている？」問題を整える

テストの目的は、①子どもたちの学習の習熟状況を測り、②指導の改善を行い、③一人一人に自分の学習状況を自覚させ、④更なる学力の定着につなげることです。本校に着任して驚いたのが、単元テストの時間の短さです。朝の麹中スタディ（30分間）に一齐に単元テストが行われるため、テスト時間は25分がMAXになっています。短い場合には7分や10分、15分というのもあります。これは、他校が行っている小テスト？とってしまうボリュームです。麹町中のアドバルーン的に広報されてきた単元テストの実態が、果たして学力向上に結びついているのだろうか？と、疑問を持たざるを得ない状況です。（現在は、例外的に時間割の調整などにより、教科によって40分テスト等の工夫を進めています）



2023 都立英語入試問題

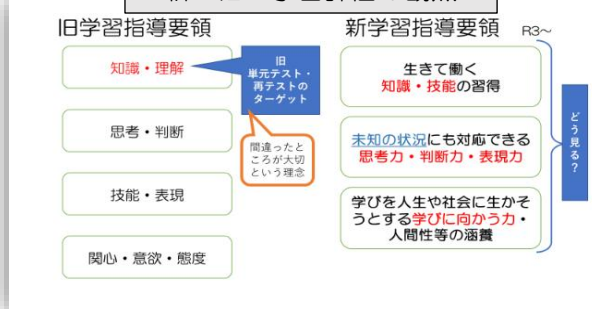
都立高校入試では、これだけ多くのボリュームを50分間で解きます。昔ながらの文法や作文問題はほとんど無くなり、総合問題によって、思考・判断・表現力を見るように変化しています。



パフォーマンス
テストも
重要です



新・旧 学習評価の観点



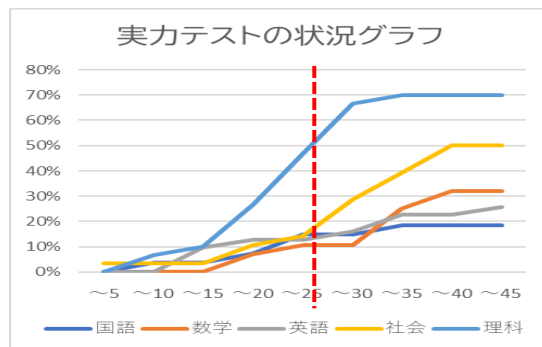
		大学入試と授業が変わる						大学入試改革の本格実施
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
入試	大学入試		大学入学共通テスト先行実施 英語試験の改革 国語・数学で記述式問題導入				本格実施 地歴・公民・理科で記述式 模試 英語の4技能 テスト等の検討	
	小学校		新学習指導要領全面実施					
	中学校		新学習指導要領全面実施					
	高等学校		新学習指導要領全面実施				高校入試の改革	

コロナ禍の影響

学習指導要領改定と入試の推移

「麹中生、50分間がんばろう！」問題を整える

前述のように、25分MAXテストに慣れているため、子どもたちの集中力の持続時間が心配です。実力テスト（本来は50分間ですが、校内の仕組みにより45分間で実施）の際に、どれだけ持続できるかを観察しました。結果はグラフのとおり、教科によりますが、25分以降に寝てしまう生徒数が増加します。また、最初の2教科や3教科までは頑張れるが、後半の教科では持続しない生徒が急増します。体内時計の問題は大きく、改善が必要であることがわかっています。入試は50分間×5教科（3教科）です。入試最中に寝ることはNGです。精神力と体力の向上が必要です。



テスト中に寝る子の割合

「再テストで解答が漏れてない？」問題を整える

本校の再テストという仕組みは、ほとんどの高等学校等では実施しないシステムです。本校では、一部の教科では、数字を変えることで再テストをいくらでも作れますので、限定的に効果が表れてきた可能性もあります。一方で、多くの教科では、単元構成や著作権等の関係で、再テスト問題を作成できないというリスクがあります。このため、どうしても酷似した問題になります。今は、ネットの時代です。子どもたちが1回目のテストの解答をネット上で共有し、答えを覚えて再テストに向かうという行動が繰り返し報告されています。上記の今求められている学力観「未知の状況」を作れない教科にとっては、子ども一人一人の思考・判断・表現の観点の学力を正確に測ることも、高めることもできません。また、子どもたちに「テストはこうすれば楽勝」という誤った習慣を植え付けることになりかねず、「学びに向かう力」を、阻害する構造になっていることも危惧されます。こういった視点に立ち、今年度から少しずつ単元テストの実施方法の改善を進めているところです。



「今朝もまた単元テストかー、ふーっ」問題を整える

体育祭明けの6月第1週から始まった「単元テスト」WEEK。ここでも、驚きがありました。7月第1週までの5週間に渡り単元テストが続いていました。これは、前述の、時間の短さに起因するものですが、毎朝のように朝一番の時間帯にテストが行われる仕組みになっています。メリハリのない長期にわたるこの仕組みにより、子どもたちのモチベーション維持の問題が発生してきます。第1週目は頑張れるものの、第2週目から、遅刻者や欠席者の数が増えはじめました。朝一番の時間帯は、脳が回転しにくいとも言われています。これらの点を考慮し、実施期間や実施時刻など、子どもたちにとってより効果的な単元テストの在り方を、現在検討中です。

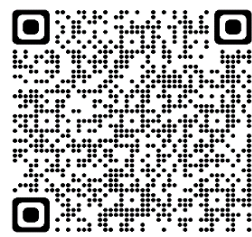


「定期テスト廃止論と復活論の2択??」問題を整える

麹町中学校では、アドバラン的に定期考査廃止論が発信されてきた経緯があります。一方で、本校の課題に正対し改善を図るために、今年度の1・2年生から単元テストの再テストをやめて、復習（フォローアップスタディ）に力を入れる仕組みに変更してきました。このことで、メディア等に定期テスト復活か？などと取り上げられるなど、現在の学習指導要領の学力観からすれば、いささか古い議論が一部で見られます。世の中には「定期テスト」と「単元テスト」の2択しかないのでしょうか？そうではありません。先進的な中学校は、時代の要請に合わせて様々なテスト方法を研究し、取り入れています。テストだけでなく必須課題の作成時間を授業に取り入れるなど、多面的な評価方法を取り入れる研究をしています。本校でも、これらの取組が始まっており、単に定期テストに戻しても解決しない様々な問題があることを認識しています。改めて子どもたちが**本気で集中でき**、達成感とともに自己の課題を認識し、学力の定着に自らつなげられるような仕組みの構築を目指しています。

「名称は大切・・・」問題もあります

「単元テスト」という名称が正しいのでしょうか？中学校の9教科には、「単元」に基づく教科と「題材」に基づく教科があります。教科によって表記を別々にするのは、学校現場では基本です。「単元テスト」という名称が使われてきた中で、「題材」教科を指導している教員の気持ちはどこに行ってしまったのでしょうか？疎外感の問題で、教科担当教員のアイデンティティに関わる問題です。本校の象徴的に「単元テスト」という単語が出回っていることで、組織としての一体感をどのように担保してきたのか疑問が残ります。こういった細かい問題も含めて、現在は、本校のより適切なテストの在り方を、教科の枠組みを超える形で、教員が知恵を寄せ合っています。



2023 都立全教科入試問題

高校入試問題は学習指導要領に基づく内容で作られています。